

## △セフスパンカプセル [内]

【重要度】★★ 【一般製剤名】セフィキシム (CFIX) (U) cefixime 【分類】経口セフェム系抗生物質

【単位】▼50mg・△100mg/Cap

【常用量】■成人, 体重30kg以上の小児: 100~200mg/日 [最大400mg/日]

■小児: 3~6mg/kg/日 [最大12mg/kg/日]

【用法】1日2回

【透析患者への投与方法】75%に減量 (U)

【その他の報告】300mgを1日1回[HD日はHD後] (17) 投与間隔をあけて投与 (Guay DR, et al: Antimicrob Agents Chemother 30: 485-90, 1986 PMID: 3777912)

【PD】50%に減量 (U,17)

【CRRT】静注セファロスポリンを選択 (17)

【保存期CKD患者への投与方法】Ccr 20~60mL/min : 75%に減量, Ccr < 20mL/min : 50%に減量 (U)

【その他の報告】GFR > 10mL/min : 減量の必要なし, GFR 10mL/min未満 : 50%に減量 (17)

高度腎障害患者で減量が必要 (Dhib M, et al: Eur J Clin Pharmacol 41: 579-83, 1991 PMID: 1815970)

Ccr 20mL/min未満でPKに有意な変化あり減量考慮 [投与間隔をあける] (Guay DR, et al: Antimicrob Agents Chemother 30: 485-90, 1986 PMID: 3777912)

【特徴】第3世代セファロスポリン。βラクタマーゼに対して比較的安定でグラム陰性菌にも抗菌力がある。1日2回投与が可能。

【主な副作用・毒性】ショック, アナフィラキシー, SJS, 血球減少, 腎障害, 大腸炎, 間質性肺炎, 下痢, 悪心, 発疹, 口内炎, ビタミンK欠乏症状など

【吸収】ka 0.4625/hr (1) 食事の影響を受けない (Faulkner RD, et al: Eur J Clin Pharmacol 34: 525-8, 1988 PMID: 3203716)

【F】29.5% (1) 31%で, ニフェジピン併用時53% (Duverne C, et al: Antimicrob Agents Chemother 36: 2462-7, 1992 PMID: 1489189) 40~50% (Faulkner RD, et al: J Clin Pharmacol 28: 700-6, 1988 PMID: 3216036) 初回通過効果は低い [ラット] (1) 腸肝循環が認められる [ラット] (1)

【tmax】4hr (1) 【Cmax】200mg経口投与時2.5 μg/mL (Dhib M, et al: Eur J Clin Pharmacol 41: 579-83, 1991 PMID: 1815970)

【代謝】代謝されない (1) P450には影響せず, 活性代謝物なし (1)

【排泄】尿中回収率20~25% [po, 12hrまで] (1) 尿中未変化体排泄率はFおよびCLから考えると60~80%と思われる (5) 尿中回収率22% [po, 24hrまで] (Dhib M, et al: Eur J Clin Pharmacol 41: 579-83, 1991 PMID: 1815970) 胆汁排泄もされ, それは飽和する (Westphal JF, et al: Clin Pharmacol Ther 54: 476-84, 1993 PMID: 8222490)

【CL】全身CL: 59.6mL/min, 腎CL: 37.4mL/min (1) CL/F 154mL/min, 腎CL 39mL/min (Dhib M, et al: Eur J Clin Pharmacol 41: 579-83, 1991 PMID: 1815970) 小児でCL/F 4.74mL/min/kg (Mamzoridi K, et al: Pharmacol Toxicol 78: 417-20, 1996 PMID: 8829204)

【t1/2】2.3~2.5hr (1) 30 ≤ Ccr < 60mL/min : 4.15hr, Ccr < 30mL/min : 11.05hr (1) 3.7hr, Ccr 20mL/min未満で12~14hr (Dhib M, et al: Eur J Clin Pharmacol 41: 579-83, 1991 PMID: 1815970) 3.3hr (Montay G, et al: Presse Med 18: 1583-6, 1989 PMID: 2530537[abstract])

【蛋白結合率】約70% (1)

【Vd】11.1L/man [iv] (1)

【MW】453.45 [無水物]

【透析性】蛋白結合率がやや高いため除去率は高くないと思われる (5) 透析時と非透析時のAUCには大きな相違なし (1) HD時半減期は40%に短縮 (1) PD除去率1.6% (1) HD, PDでの除去率は低い (Guay DR, et al: Antimicrob Agents Chemother 30: 485-90, 1986 PMID: 3777912)

【TDMのポイント】TDMの対象とならない【O/W係数】 $2.9 \times 10^{-3}$  [1-オクタノール/水系] (1)

【相互作用】Al, Mg含有制酸剤併用の影響を受けない (Healy DP, et al: Antimicrob Agents Chemother 33: 1994-7, 1989 PMID: 2610509)

【肝障害患者への投与方法】減量の必要なし (Singlas E, et al: Presse Med 18: 1587-8, 1989 PMID: 2530538 [abstract])

【備考】

【更新日】20170417

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。